
レポート書式見本

※この資料では、『履修要項 社会学部社会学科』（「Ⅶ 卒業論文について」の補足として記載）をもとにレポートの書式を説明しています。さらに『社会学評論スタイルガイド』（<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>）を参照しています。この資料を読んで、レポート書式の参考にしてください。もしわからないことがあれば、どんな些細なことでもかまいませんので、お気軽にライティングサポートセンターを訪ねてください。スタッフがわかりやすく説明します。

【内容】

1. レポート書式の注意事項

- ① 講義名・担当教員名・提出日・学籍番号・氏名
- ② 用紙サイズ・行数・文字数
- ③ タイトル
- ④ ページ番号
- ⑤ 図表
- ⑥ 引用
- ⑦ 注
- ⑧ 参考文献

2. レポート書式見本

「静岡県三島市の環境に対する住民意識と水——マイバッグ運動の起点——」

【文献】

日本社会学会, 2009, 「社会学評論スタイルガイド」, 日本社会学会ホームページ, (2015年11月23日取得, <http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide1.php>).

龍谷大学, 2015, 「卒業論文について」『2015 履修要項 社会学部社会学科』龍谷大学, 77-82.

レポート書式の注意事項

◆以下は書式についての一般的なルールです。担当教員から詳細な指示がなかった場合に参考にしてください。

◆その他、不明な点については、ライティングセンターにてアドバイスします。

① 講義名・担当教員名・提出日・学籍番号・氏名

学籍番号と氏名は忘れずに記入する。講義名・担当教員名・提出日を記入すればより丁寧になる。

② 用紙サイズ・行数・文字数

パソコンの基本設定値(A4用紙・36文字×40行)をそのまま使用する。

③ タイトル

レポートはタイトルを付けることで内容がより伝わりやすくなる。自分のレポートを一言で表現したものや、キーワードとなる言葉をタイトルにしよう。タイトルの文字の大きさは、本文より少し大きめのフォント(12p程度)が適当。

④ ページ番号

ページが複数にわたる場合はページ番号をページ下につける。ホッチキス等で留めることも忘れずに。

⑤ 引用

1) 短い文章(1~2行)の引用

引用箇所を「」で囲み、出典を明記する。

出典には(著者名 出版年: 引用箇所のページ数)の順で記す。

【例】レポート見本(後掲)から

位置づけられるだけでなく、「被害を未然に防止するタイプの運動である点で画期的であった」(飯島 2000: 151)ともされている。



2) 長い文章(3行以上)の引用

「」を用いず、引用箇所の上下1行あけて文頭を2文字下げ、出典を明記する。出典の書き方は短い文章の引用と同じ。

【例】レポート見本(後掲)から

この石油コンビナート計画の阻止と環境のかかわりについて、小林一弥(2003)は次のように述べている。

石油コンビナート進出阻止の運動は、生活権を訴えた文化運動であり、三島の基底に流れる文化性とは、水辺環境で育まれた生活文化である。その文化性が、企業進出にともなう水の濁水、四日市視察で直面した公害のリアリズムに誘発され、独自のな高まりを見せたのだと考えられる。(小林 2003: 128)

三島市には「水辺環境で育まれた生活文化」が基底にあり、それが「石油コンビナート進出阻止の運動」につながったのである。

⑥ 図表

図表を使う時は、図表番号（図 1、表 1）と題名をつけて出典を明記する。

⑦ 注

注は文末に配置し、補足として説明が必要な場合に用いる。次のような場合である。

- ・前後の文章のつながりからすると、その文を挿入することで脈絡がおかしくなってしまう。しかし、レポートの内容からすれば、触れておきたい。
- ・レポートの本文中で、専門用語を特定の意味で使ったり、言葉の意味を自分で定義づけしたりして、そのことを説明しておかなければならない。

注のつけ方は、本文中に 1) のように番号を付し、文末にその説明を入れておく形である。あとに示すレポート見本では、「本論①情報整理」部分の最後の行に、本文中の番号が付されている。これに対応して、レポート本文の末尾に [注] の部分が設けられている。

⑧ 参考文献

レポート末尾に [文献] として 50 音順に一覧にする。また、引用した文献の他にも、引用はしていないが実際に読んで参考にした文献も参考文献に含める。おもに以下の 1) ~ 4) の場合がある。

1) 単行本の場合

著者，発行年，『書名』発行所。

【例】飯島伸子，2000，『環境問題の社会史』有斐閣。



2) 共著に収録された論文の場合

著者名，出版年，「論文のタイトル」共著者名『本のタイトル』出版社名，文の初ページ - 終ページ。

【例】大宮太郎，1965，「滋賀県における郊外の形成」大宮太郎・深草次郎・瀬田三郎『滋賀県の現在』龍谷書房，317-505。

3) 雑誌論文の場合

著者名，出版年，「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号)：論文の初ページ - 終ページ。

【例】塩原勉，1980，「組織研究と社会学」『組織科学』14(1)：10-19。



4) ホームページの場合

作成者，掲載年，「タイトル」，ウェブサイト名，（取得日，URL）。

【例】イオン，2015，「買物袋持参運動」，イオン株式会社ホームページ，（2016年3月23日取得，<https://www.aeon.info/environment/environment/mybag.html>）。

5) 新聞記事の場合

記者名（記名している場合），「記事のタイトル」『新聞名』掲載年月日 朝刊夕刊の別：ページ数。

【例】「三島進出を断念 富士石油、市に申し入れ」『読売新聞』1964年6月28日朝刊：4。

※新聞記事に関しては、社会学評論スタイルガイドの書式とは異なります。

⑨ 留意点

ここで説明した書き方は、絶対のものではありません。アカデミックに決められた書式はほかにもあります。とりわけ留意してほしい点は上記⑥⑦⑧です。これらはほかの書き方も多様にあるので、先生に尋ねてみるのが大切です。

講義名
担当教員名

学籍番号：〇〇〇〇〇

氏名：〇〇〇〇〇〇

静岡県三島市の環境に対する住民意識と水 —マイバッグ運動の起点—

序 論

環境問題の様々な取り組みの中に、マイバッグ運動がある。日本全国でショッピングモールを展開するイオンの報告によると、2014年のレジ袋辞退率は67.5%（イオン 2015: グラフ）であった。静岡県三島市では、市が「マイバッグ推進運動」を展開しており、2009年以降レジ袋の辞退率は80%（三島市 2015: 「レジ袋辞退率調査の結果」表）を超えている。三島市のレジ袋辞退率は、なぜこれほど高いのだろうか。三島市において「マイバッグ推進運動」が成功している結果であろう。本レポートは、三島市の「マイバッグ推進運動」を支える起点の一つとして、この地域の住民意識と水とのかかわりを明らかにする。

本論①： 情報整理

「水の都」ともいわれた三島市は、酒造、米屋、豆腐屋、製紙業などのきれいな水を必要とする産業が盛んで、富士山からの大量の湧水が三島の人々の産業や生活を支えていた（三島市 2006）。しかし、1958年の東レ誘致以降、東レを始めとする周囲の工場が地下水から大量の工業用水を取水した。これにより市街地を流れる源兵衛川が渇水し、水不足の事態に陥った。渇水した川からは腐臭が漂うに至り、市民運動に結集していったのである。さらに1964年には大規模な石油コンビナートの建設計画が具体的にもちあがった（北川・石川 1964）。しかし、この計画は市民運動によって中止になっている。この計画の中核であった「富士石油が三島進出を断念したのは、地元民のコンビナート反対運動が根づいたため」（『読売新聞』1964.6.28 朝刊）であった。この石油コンビナート建設阻止は「高度経済成長期をもろ手を挙げて歓迎していた雰囲気を引き締めるためには、一定の効果を示した（中略）1960年代におけるそうした環境運動の代表例」（飯島 2000: 151）として位置づけられている。

本論②： 考 察

以上のような三島市の地域性から、三島の住民の環境意識の背景にあるものを考察する。三島には古くから次のような言葉が残されている。「三尺（1m）下れば真水になる」（三島市 2006: 2）。これは、たとえ家庭の汚水を川に流しても1mも下れば、きれいな水になるということの意味する。しかし、この考えが工場の取水による湧水の減少で一変する。この時に感じた住民の危機感は、日常生活と密接に関わるだけに、より切実なものであった。だからこそ市民運動に結集したといえる。このときの経験がのちの石油コンビナートの建設計画阻止の市民運動にもつながっていったのである。そして、石油コンビナート計画の阻止は高度経済成長期における地域開発のあり方を見つめ直す一視点を提示するものであり、石油コンビナートがもたらす経済的な潤いよりも環境保全を優先したものであった。この石油コンビナート計画の阻止と環境のかかわりについて、小林一弥（2003）は次のように述べている。

石油コンビナート進出阻止の運動は、生活権を訴えた文化運動であり、三島の基底に流れる文化性とは、水辺環境で育まれた生活文化である。その文化性が、企業進出にもなう水の渇水、四日市視察で直面した公害のリアリズムに誘発され、独自のな高まりを見せたのだと考えられる。（小林 2003: 128）

三島市には「水辺環境で育まれた生活文化」が基底にあり、それが「石油コンビナート進出阻止の運動」につながったのである。この指摘はこのときにのみ当てはまるものではない。このような市民運動が三島市民の環境に対する意識を形成していったのである。「環境先進都市」（JFS 2006: 第3段落）をめざす三島市が環境教育に力を入れているのは、過去の水をめぐる市民運動がいまも息づき、今後にもつながるさまざまな環境保全の動きの礎になっていることの表れである。三島市のマイバッグ運動はこのような水をめぐる住民意識が起点になっているのである。

結論

以上のように、三島市のマイバッグ運動好調の背景には、一見無関係に思える富士山からの湧水とそれにまつわる住民の営みが深く関連していることがわかる。マイバッグ運動を支える水に対する住民の環境意識は、環境教育を推進する三島市において、現在のみならず未来の環境保護活動にもつながっていくと考えられる。

注

[注]

- ¹⁾ 「被害を未然に防止するタイプの運動である点で画期的であった」（飯島 2000: 151）とも指摘している。このことは以前に起こった東レなどによる濁水・腐臭問題の被害が出た後の経験を契機として未来志向型の環境意識につながっていると考えられる。

[文献]

飯島伸子, 2000, 『環境問題の社会史』 有斐閣.

北川隆吉・石川淳志, 1964, 「工業化の進展と地域社会の変化——静岡県三島市調査報告」『社会労働研究』 11(3): 41-83.

小林一弥, 2003, 「石油コンビナート進出阻止の住民運動——一九六四年の三島市を中心にみる」『史観』 148: 127-128.

三島市郷土館, 1991, 『「水と生活」から』『郷土館だより』 40: 2-5.

三島市郷土館, 2001, 「水といきる」三島市.

「三島進出を断念 富士石油、市に申し入れ」『読売新聞』 1964年6月28日朝刊: 4.

参考文献

[参考ウェブサイト]

イオン, 2015, 「買物袋持参運動」, イオン株式会社ホームページ, (2016年3月23日取得, <https://www.aeon.info/environment/environment/mybag.html>).

ジャパン・フォー・サステナビリティ (JFS), 2006, 「みんなで築く環境先進都市——静岡県三島市」, JFS ホームページ, (2015年11月18日取得, http://www.japanfs.org/ja/news/archives/news_id027351.html).

三島市, 2006, 「三島の水の歴史と、昔盛んだった水に関係ある産業について」, 三島市ホームページ, (2015年11月18日取得, http://www.city.mishima.shizuoka.jp/mishima_info/kodomo/yusui/mizufa003.html).

三島市, 2015, 「レジ袋の再利用やマイバッグ持参を推進しています」, 三島市ホームページ (2015年11月18日取得, <https://www.city.mishima.shizuoka.jp/ipn005220.html>).